

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

動力車新聞 号外

本部

みずからの不正義性を完全に暴露

『本部は「五項目の解明要求」・「四つの闘争方針」に真正面から答えてみよう!』

中央本部は、この間、わが千葉地本が展開している動労の大改革運動の一環として発行をかねておこなっている本紙「日刊動労千葉」の事実に基づく圧倒的な情宣活動とその全国的な影響力を無視することが出来ず、ついに動力車新聞号外(その2)(二月二〇日付)をもって攻撃を行ってきた。われわれは、この動力車新聞号外シリーズの発行を電話連絡指令・指示類の千葉地本内各支部への直送、家庭郵送攻撃とあわせて、わが千葉地本に対する事実上の執行権停止と再登録攻撃の新たな全面的強化策動として受けとめなければならない。

― 一体誰が反組織攻撃・分裂策動をやっているのか! ―

この「号外(その1・2)」は、千葉地本に対して、①機関決定を無視し②反組織活動・分裂策動を行ない③デマに基づく「日刊動労千葉」を発行し④異常なまでの本部攻撃を行ない⑤動労内部より組織混乱・分裂をつくり出し、利敵行為を行なっている。ときめつけている。

このようなわが千葉地本に対するいわれなき誹謗・中傷を断じて許すわけにはいかない。第三四回全国大会・一〇一回定中委をはじめとする今日の数々の千葉地本排除・組織破壊攻撃でも明らかのように、組織分断・反組織攻撃を行なってきたのは、他でもなく彼ら革マル派と一部反動分子ではなかったのか!

そして、この彼らの規約・規則無視・組織運営ルール無視、組織分断攻撃に対し、千本組織二六・二七号をもって五項目の解明要求を本部につきつけ、この解決がなされない限り、今後の一切の統一行動の基盤がないことを明らかにしたのである。

さらに、わが千葉地本は、第三二回臨時大会をもって「三里塚連帯」「貨物安定宣言廃棄」「水本脱会」「民主的組合運営」の四つの闘争方針を内外に明らかにし、この方針こそわが動労の戦闘的強化と八〇年代日本労働運動の戦闘的再生をかねたる道であることを確認したのである。

― 本部は「五項目の解明要求」になぜ真正面から答えないのか?! ―

こうした千葉地本の態度が全く正しかった

ことを逆に「動力車新聞号外」は証明している。

すなわち、わが千葉地本の五項目の解明要求に対し「デマをもとにした申入れ」などと中傷し、事実を歪曲し、否定し、自分に都合の悪いところは、全て切り捨てると言うやり方で、真正面から答えようとしていない。

そればかりか、「三里塚敵対、貨物安定輸送も水本運動もすべて全国大会決定方針である」「千葉地本は、機関決定無視、指令・指示違反だ」をくりかえし書きつらね、千葉地本が、分裂策動を行なっているとしている。彼らのいう「機関決定」「指令・指示」論の背景には「多数派なら何をやっても良い、従わない者が悪い」式の極めてゴウマンで動労の私物化・引き廻しの論理が一貫している。

― 不正義を「暴力」と「機関決定」で押しつける本部の論理 ―

こうして「機関決定」のみをふりかざす中央本部一部革マルと反動分子は、わが千葉地本の提起する五項目の解明要求と二・一〇臨大の四つの闘争方針に何んら真正面から反論出来ないものである。

激動の八〇年代を前にますます激化する支配階級・国鉄当局の攻撃と真向から対決する動労運動を構築するため、二・一〇臨大方針こそ、動労四万八千の闘争指針であると確信し、革マルによる動労の私物化、セクト的引き廻しを断固として阻止し、動労運動を四万八千組合員の手にとりもどさなければならぬ。

われわれは、つねに、この闘いの先頭に立つだろう。